

研究・調査報告書

報告書番号	担当
598	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Interactions between migraine and tension-type headache and alcohol drinking, alcohol flushing, and hangover in Japanese. 日本人における片頭痛と緊張性頭痛、アルコール摂取、アルコールフラッシング、二日酔いの関連	
執筆者	
Yokoyama M, Suzuki N, Yokoyama T, Yokoyama A, Funazu K, Shimizu T, Shibata M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Headache Pain. 2012 Mar;13(2):137-45.	
キーワード	
日本人、片頭痛、緊張性頭痛、アルコール摂取、フラッシング、二日酔い	
要旨	
<p>アルコールフラッシングや二日酔いに対する感受性が高くなる原因として不活性型アルデヒド脱水素酵素 2 (ALDH2) の存在があるが、不活性型 ALDH2 はアルコール摂取を阻害する。東京都の 5408 名 (男性 2778 名、女性 2630 名) の健診受診者のうち、一般的な風邪や二日酔いに関係のない頭痛を経験したことがある 2577 名 (男性 1018 名、女性 1559 名) で断面調査を行った。1 杯のビールで現在あるいは過去に顔面紅潮するかどうかなどを尋ね、不活性型 ALDH2 の存在を約 90% の確率で識別することができる質問票を使用した。また、国際頭痛分類第 2 版 (ICHD-II) に基づき、片頭痛が 419 名 (男性 75 名、女性 344 名)、緊張性頭痛 (TTH) が 613 名 (男性 249 名、女性 364 名) いることがわかった。残りの 1545 名 (男性 694 名、女性 851 名) の頭痛持ちはその他の頭痛 (OH) に分類した。この結果、TTH の現在/過去のフラッシャーや OH よりも、片頭痛持ちはアルコール摂取機会が少ないことがわかった。TTH と OH で飲酒頻度の違いはなかった。非フラッシャーよりも、現在/過去のフラッシャーはアルコール摂取機会が少なく、TTH や OH の男性よりも男性の片頭痛持ちはアルコール摂取を避けていた。非フラッシャーと男性に比べ、フラッシャーと女性は頭痛のタイプに関わらず、より二日酔いに感受性であった。非フラッシャーの中でも、OH の女性に比べ、片頭痛持ちの女性はより二日酔いに感受性であった。</p>	